

2022 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---------|------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4072200423 | | |
| 法人名 | 有限会社Bamboo | | |
| 事業所名 | グループホーム和笑 | ユニット名 | |
| 所在地 | 福岡県朝倉市長谷山393番地10 | | |
| 自己評価作成日 | 2022年12月13日 | 評価結果市町村受理日 | 2023年3月23日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | | | |
|-------|------------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 一般財団法人 福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F | | |
| 訪問調査日 | 2023年2月22日 | 評価確定日 | 2023年3月17日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

秋月の観光地、眼鏡橋のすぐそばにあり、まわりには山々や田園風景に囲まれ、四季の移り変わりを色彩や風のにおい、川のせせらぎの音から、肌で感じとることができる自然豊かな環境の中にいます。まるで♪ふるさと♪の歌詞そのものです。また、心穏やかに過ごしていただけるよう、入居者のみなさまひとりひとりの生活歴や病歴を把握し、適切な声かけや、ケアができるようこれからの日々においても生き甲斐が持てるよう得意とする分野や趣味を楽しめるようにもお手伝いできるような努めたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホーム和笑”は2004年に開設している。運営者（管理者等）もホーム近くに在住し、地域の一員として運営を続けてこられた。コロナ禍もPTA主催の廃品回収は行われ、保護者の方が回収に来て下さり、地域の清掃活動に管理者が参加している。2022年度はおくんち行事が復活し、獅子舞の慰問を受けることができ、近所の人達と楽しむことができた。日々の生活では、ご利用者の健康管理に努め、かかりつけ医と24時間連携でき、終末期も「大丈夫です。心配しなくていい。連絡すれば来ますので」と言うお言葉を頂いている。同法人の看護師にも相談でき、ホーム前に住む管理者もすぐに駆け付ける体制を整えている。管理者は「ご利用者の方々が幸せなひとときを感じて頂きたい」と願い、ご利用者ができる事は自分の意志で「やってみよう」と思えるように努めてこられ、雑巾縫いをされる方、編み物を楽しまれる方、新聞折りや洗濯物たみなどを役割としている方もおられる。今後も「できる方法」を前向きに検討できるチームを作ると共に、「あそこ（和笑）に任せて安心」「あそこ（和笑）に就職したい」と思えるホーム作りに努めていく予定である。

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念を見やすいところに提示し、利用者様と一緒に読み上げることによって、理念を共有できるよう努めている | 理念にある「和みの中で笑みに包まれゆったりと楽しく」を大切にされており、ご利用者が起床時にリビングに来られた際に、笑顔で「おはよう」の言葉が交わされている。「残された力で暮らしの喜びと自信を」という理念も大切に、体操等を通して右腕が上がるようになった方もおられる。今後も職員全員で理念の実践に繋げていく予定である。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日常的なつながりに向けての努力が「コロナ」を言い訳として薄くなってきており、交流は積極的には行っていないが、コロナ禍で昨年まで中止していた獅子舞の慰問を今年は再開して頂きホーム前の駐車場で県文化財の舞を地域の方とともに楽しむことができた | 理念の中に「地域の方と仲良く楽しく」とあり、コロナ以前は中学生が夏休みにボランティアに来て下さり、ご利用者と交流されたり、保育園児のお遊戯披露を楽しまれていた。コロナ禍もPTA主催の廃品回収は行われ、保護者の方が回収に来て下さり、地域の清掃活動に管理者が参加している。2022年度はおくち行事が復活し、獅子舞の慰問を受けることができた。 | 2023年度も文化祭などを見学し、ご利用者の作品創作への意欲などに繋げると共に、コロナ以前に行われていた中学校音楽部との交流方法を検討していく予定である。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議も会員の人からの希望で会議の中で認知症のミニ講座として発進している | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 文面にての書面開催を続けており、資料に目を通した後に意見や感想を頂いているが十分に活かさきっていない | コロナ禍（2020年3月以降）は書面会議に切り替え、アンケート方式でご意見を頂き、議事録に残している。認知症に関する情報提供も継続し、一般的な症状以外に個別的な違いを共有させて頂いている。外部評価結果も報告し、ご意見を頂いている。コロナ以前は、避難訓練・敬老会・クリスマス会、新年会等の行事の1つに参加して頂いていた。 | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | いつもいつも頼りにしており、相談しやすい関係をありがたく思っている | 開設前から朝倉市役所の方々にご協力を頂き、現在の場所に開設することができた。運営に関する不明点も市に相談し、親身に対応して頂いている。コロナ関連等も随時報告し、丁寧なアドバイスを頂いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員会議でも時々、話し合っており、職員間でもいけない事である。という理解には十分にあり、見守りや観察の強化に取り組んでいる | 「身体的拘束等の適正化のための指針」があり、職員間で共有している。委員会活動も行い、他の施設で行われた身体拘束事例を報告し、情報交換しており、転倒予防のための解決策の検討も行っている。職員の関わりで入居後は元気になり、笑顔が増える方も多い。今後は虐待防止委員会も開催予定である。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 学ぶ機会は今現在ないが、職員会議にて話し合っており虐待がないよう努めている | | |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | コロナ禍で密を避け感染を起こさないことに重きを置き、学ぶ機会、学ぶ工夫が足りない | 入居時に管理者が制度の説明をしている。入居後も制度利用の必要性を確認し、必要時は制度の説明をしている。制度を利用していた方もおられ、情報交換を続けていた。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時の説明の中で、十分に説明し理解していただいている | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時や電話で状況報告をする際に尋ねたりして反映させている。家族や本人からの意見・要望は全職員で共有し、改善点などがあれば話し合っており対応している | コロナ禍は電話での情報交換が増えている。毎月の通信に写真を多く掲載し、暮らしぶりが伝わるようにしている。ホームは1階建てであり、窓越しの面会も可能で、寒い中も面会に来て下さっている。「家族の会」もあり、会長の交代時や災害時の対応もご意見を頂いている。 | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回の職員会議の中でも、又業務中であっても気付いたことの意味は伝えるが反映できるまでには至っていない | 勤務希望も叶えており、子育てとの両立ができるよう勤務調整している。個別ケアの在り方も検討し、検討時は「職員の都合に合わせたケア優先になっていないか」等を慎重に確認している。「1ヶ月間はこれでやってみよう」と会議で決まった際は記録に残し、全員が把握できるように努めている。 | ご利用者の方に幸せなひとときを感じて頂くため、職員みんなで「できる方法」を検討できるチームを作り、ご本人のやりたいことを優先できる方法を考えていく予定である。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者が年度末に一人ずつ面談を実施する中で努めている。 | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している | 職員の採用においても、性別や年齢などよりやる気や笑顔を求めたい。 | 採用時はヘルパー2級以上の方で、言葉遣いや表情のやさらかさ、気遣いの目などを大切に採用している。採用後は新人教育を行い、仕事に就く前にマニュアルを読んで頂き、現場指導も続けている。職員個々の特技（トランプを使った手品・踊り・手芸・人を笑わせるのが得意等）を把握し、日々の生活で發揮して頂いている。 | |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 現在、事業所内での研修も対面ではできていないが、過去の研修資料等で、自ら研修している職員もいてくれる | ホームの理念である「和みの中で笑みに包まれゆったりと楽しく・・・」を共有する中で、言葉遣いの振り返りや注意を行うと共に、「残された力で暮らしの喜びと自信」も大切に、食事、排泄、入浴等、自立支援の視点を大切にケアの実践に努めている。 | |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内部研修の場も現在、控えているし、研修そのものが以前より少ないのも確かである。過去の資料や一般書など少ないが自由に閲覧できる。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム部会が現在は年に1度、その前に書面にて「テーマ」を決めていてそれに対する意見等をもとにリモートで取り組んでいる | | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------|------|--|---|---|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居の際には前もって聞き取りなどの場を設けたり、入浴介助時や、トイレ介助時などの、たわいない日常生活の中で会話から不安や要望の把握に努めている | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居時も家族の人たちの思いをくみ取り、計画を作成しながら、日々の生活状況も伝えながら気軽に相談できる雰囲気作りを心がけている | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 例えば散髪や病院受診などは家族の人に報告したうえで対応している | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 出来る事は自分の意志で「やってみよう」と思えるような働きがけに努め、まだまだ自分でできることがたくさんあることに気づいて、日常の家事を共にするなかで、残存能力を発揮して頂いている | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 現在ガラス越しの面会なので家族の人の言葉をうまく伝えながら絆の深まりができるようにしている | | |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍であり、遠方の親戚の人や友人との面会は困難であるが携帯でのビデオ通話などを利用している。面会の連絡をうけたら情報提供としてその人を思い出していただき楽しみに待たれるよう支援している。 | 普段の会話の中で「神社で遊んでいた」等の馴染みの場所や馴染みの人（友達の名前）等を教えて頂いており、家族からも伺っている。定期受診等で外出した際に家の近くを通ることもあり、今後も馴染みの場所の訪問を増やしていく予定である。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 性格や認知度の面から難しい面があるが、見守りや観察を十分にし、和んだ雰囲気新鮮な感じで会話がしやすいよう席を工夫したり談話が弾むよう努力している | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 思い出多い時期にたまに電話を掛けたりお元気な声を聴いて安心されたりしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | それぞれの職員が普段の会話の中から得た情報は職員間で共有している | 日々の生活の中で思いや意向を伺うと共に、レクの時に「好きな食べ物・嫌いな食べ物」「小さい頃の遊び」「家族の名前」等を教えて頂いている。今後も職員の思い込みをなくし、ご本人の真意を引き出すと共に、聞き取れた内容や要望などを記録に残していく予定である。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族の人から教えて頂きながら、また以前につながりのあった事業所からの情報提供も頂いている | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | それぞれの職員が気付いたことや聞いたことを共有するように申し送りにて記録している | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族からは必要に応じて連絡取ったり、聞き取りを行ったりしており、また会議でも意見交換をしながら実態に合った介護計画の作成に取り組んでいる | フェースシートに生活歴を残し、アセスメント表・ケアチェック表を活用してアセスメントしている。「できそうなこと・自立支援」の視点も大切にしているが、職員個々の体力や体調もあり、日々の生活で実践することが難しいものもあり、職員同士の検討を続けている。行動障害が見られる時は原因分析し、解決策の検討を行い、適宜見直しを続けている。 | ①今後も生活歴の記載を増やし、「ケアチェック表」の右下欄に、ご本人の「有する能力（ADL・IADL等）」「各活動の要望」「解決策」を追記すると共に、日課計画表にも「ご本人ができること」「ケア面や医療面の留意点」を追記し、全職員で共有していく予定である。 ②介護計画はご本人に分かりやすい表現を工夫し、ご本人の目標を記載した計画にしていく予定である。 |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | その日その日の様子観察を出勤者が行い、日勤者に報告し共有し合って記録をとっており、見直しの際にはみんなで出し合った意見を参考にケアマネが提案している | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | いろいろなニーズに対しての、柔軟な対応には十分に組み合わせていない | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 自然環境はとてもいいところだがコロナ禍で十分な協働は現在できていない | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 週1回の往診の際に事業所で把握している健康観察の記録を医師や看護師に報告し当日の診察を合わせ適切な診断ができるよう支援している | 往診が受けられるため、ホームの協力医療機関に変更される方が多い。毎週の往診時に日頃の過ごし方、バイタル測定値、食事や入浴、排泄状況等を報告し、医師からアドバイスを頂いている。協力医療機関からの紹介で別の診療科を受診する際は、極力家族にも同行して頂いている。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職が毎日はいないので申し送りでの職員に伝えたり場合によっては医師に相談や報告している | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院に関しては日常の状態を報告したり診察したうえで、病院への詳しい情報提供や、やりとりは管理者や看護師が行っているし、逆に退院して戻って来られる際も情報提供などのやりとりを行っている | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 管理者が家族の人に定期的に電話して状態報告をしつつ家族の人たちの気持ちや要望を聞いたりしている。現在の職員の状況なども理解いただき、うちとしても出来る事を再確認して頂いている。時には訪問看護の利用もある | 入居時に意向確認し、体調変化時も家族と主治医と話し合い、ホームで出来ること・出来ないこと等を共有している。「ここで最期まで」と希望する方も多く、病状に応じた最適な生活環境やケア内容を検討している。家族の方にも寄り添っていただき、職員と一緒に誠心誠意の介護が行われている。かかりつけ医と24時間連携でき、終末期も「大丈夫です。心配しなくていい。連絡すれば来ますので」と言うお言葉を頂いている。 | |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | コロナを理由にはいけないと改めて思うが、現在研修や訓練を行っていない | | |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練の実施はできていない | 施設長が地元の消防団員である。コロナ前は消防署と一緒に訓練し、助言を受けていた。年1回は消防署の立ち入り訪問があり、アドバイスを頂いている。2022年9月の職員会議で火災の怖さを共有し、消火器の使い方、通報の仕方、避難誘導の方法等を確認した。災害に備えて飲料水や食料等を準備しており、2023年度中にBCP（事業継続計画）を作成し、訓練に繋げていく予定である。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人一人、適した声かけ等行っている職員も多いが、言葉かけの仕方や内容にて不十分なものもある | ご利用者への言葉遣いを大切にされている。方言を使い、温かい声かけをするように努め、人生の大先輩として尊厳を持ってケアしていきたく考えている。羞恥心に配慮し、排泄時の声の大きさを気を付け、居室に入る際は事前にご本人に伝えている。時に職員の語尾が強くなる場合は管理者が注意し、職員も振り返りを続けている。 | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 声かけや問いかけ、見守りなどで、できることは行っている | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様の要望などがあればその日その時に対応している | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | おしゃれまでには至っていないが季節感やその日の気温などは配慮したものをすすめている | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 好みのメニューとして準備したものではないが「おいしい！大好き」と言っている。おやつ作りに関してはリクエストに対して手分けして一緒に作ったり、配膳の手伝いをしてもらったりしている | ご飯はホームで炊き、汁物と副食は宅配を利用している。検食する職員（1人）は同じ食事を一緒に食べている。食欲が沸くよう、その日の献立や食材を説明し、季節が伝わるように努めている。手作りおやつ（お汁粉）の時は、ご利用者と一緒に団子を丸めたり、下膳、食器の片づけ、テーブル拭き等を手伝って下さる。嚥下機能が低下している方は主治医に相談し、トロミなどを付けている。 | |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食べやすい大きさ、硬さにし、残さず食べて頂けるよう、量や栄養バランスに気をつけ、水分に関しては自然と多く摂取できるようにみんな飲む機会を多く毎食後設けている | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 歯磨き、うがいの声かけをしながら、見守りし、状態に応じて介助している | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 時間を見計らって声かけをしたり、排泄がスムーズに行えるよう適度な運動（腸活）をレクや体操に取り入れている | 排泄が自立し、布の下着を着用する方もおられる。できる限り日中はトイレ誘導し、失禁を減らすように努めている。紙パンツ使用の方が布パンツに変更できそうな方もおられ、個別ケアに努めている。羞恥心に配慮してトイレのドアを閉めたり、言葉かけに配慮している。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 体操を取り入れたり、水分もしっかり摂って頂くような工夫をしている | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 現在、職員配置や2人介助の必要な人などの状況から、入浴日を決めている。（毎日入りたい人もいらっしゃる中、また逆に入りたくない人も） | 入浴好きな方が多く、できる限り湯船に浸かられている。大きなお風呂で足を延ばし、麻痺のある方等はマッサージをされたり、職員に昔話や自慢話などをして下さる。ご自分で洗える方もおられ、自立支援に努めている。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | あまり出来ていない。臥床希望訴えの出来る人は臥床したりしている。安眠目的で浮腫予防にもなるよう | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 副作用などまでは理解できていないと思われるが、正しく飲んでいただくようセットする人、本人に渡す人と、十分にチェックし、本人も日付と本人の名前（朝昼夕）を声を出して確認してもらっている | | |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | コーヒーが好きな人への提供や、編み物等、その人が希望する事、好きな事などして頂いたり趣味がなくても片付けが好きな人に新聞折や洗濯物たたみなど手伝って頂き、役割のように張り切ってされる方もおられる | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 近くまでの散歩などはようやく始めたりしているが状況をみて敷地内だけの時もある | ベランダで日向ぼっこをしながら山や花を眺めたり、敷地内を散歩しており、近所のベンチのある川辺まで散歩する時もある。コロナ以前は眼鏡橋を渡り、パン屋に行かれたり、秋月城の桜の花見、原鶴の昇竜観音、ひまわり見学、三連水車、キリンビール花園等にお連れしていた。チラシやテレビを一緒に見ながら「ここに行きたいね」等の言葉も聞かれており、今後も外出の機会を増やしていく予定である。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在は外出する機会がないことから、お金を所持している人はいないので出来ていない | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 一部の方になるが希望があれば電話をかけたり、また手紙を預かったりしている。時には、テレビ電話で会話をしたりしている | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節毎の飾り物や置き物などを置いたり、湿度や温度にも気をつけ居心地がよくなるよう、また日常での写真を貼りだしたり工夫している | リビングで過ごす方が多い。洗濯物畳みを一緒にしたり、新聞紙で箱を折ったり、雑巾縫いや塗り絵等をされている。リビングの壁面に季節の飾りつけを行い、職員が花を持参して飾られている。食事中に眩しい光が入らないようにカーテンや席の移動で工夫している。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 玄関に椅子を置いたり、互いの居室にての会話も見守ったり、テラスに椅子を持ち出したりとその方の意にあった過ごし方を模索している | | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 出来る限り自宅の延長上にいるように自宅で使用していたものを持ってきて頂いている | 入口に花などの目印をつけている。入居時は居室に何も置いておらず、自宅から必要なもの（家族の写真、ベッド、テレビ、筆筒、枕、寝具、座椅子、化粧品等）を持ち込まれており、遺影に手を合わせる方もおられる。48色の色鉛筆を持参し、塗り絵等を楽しまれている。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレの場所が分かるように張り紙をしたり、手作りの日めくりカレンダーで日付を分かりやすくしたり、タンスの引き出しに何が入っているか張り紙したりして「出来る事」「わかる事」を増やしている | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |